

陽の里

発行 平成27年6月25日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.124

テーマ 「地域支援事業」を通じた「まちづくり」を共に考える



健康教室で地域との交流

健康教室を活かした地域との交流

もやいの家瑞穂 安田 正子

もやいの家瑞穂も開設して今年5年目を迎えました。

また、瑞穂市の地域支援事業「健康教室」は委託を受けて4年目を迎えます。地域支援事業とは、65歳以上の介護認定を受けていない方が対象の介護予防事業です。参加される方も60代から90代までと幅広く、毎回80名近くの参加があり会場一杯の状況でした。住民の方の自分の健康に対する関心の高さだと思えます。

年間6回の開催で講座の内容は、高齢者の病気・認知症・リハビリ・食事・介護保険、自身の終末について等、これからの自分の生き方を考えることができる内容です。各専門家を招き、もやいの家瑞穂の地域交流スペースを活用して開催してきました。

27年度は4か所の会場で開催されます。高齢になると運動機能や外出意欲も低下し知人や地域との交流も少なくなります。しかし、「ここに来るとみんなとの出会いがあり、話が出てためになることを学べて元気になれる」と毎回講座を楽しみに足を運ばれる方もみえます。

介護予防は、運動機能の維持や改善だけではありません。高齢者自身が生きがいや社会での役割を持つことで介護予防に繋がります。この講座を受けるだけではなく自分たちの住み慣れた地域で活動的に「自立」と「尊厳」ある暮らしを継続する。そして、その地域を支える担い手として、社会的な役割を持つことで人々の暮らしを支える「まちづくり」を共に考え創っていききたいと思います。

チューリップ祭

チューリップ祭実行委員長

成瀬彩実

サンビレッジ新生苑では年間4,500人を超えるボランティアの皆さんが活動し利用者の方々の生活を支える役割を担って下さっています。その活躍して頂いているボランティアの皆さんに今年も感謝をこめ「チューリップ祭」が開催されました。

当日は雨の予想が一変し、晴天となり中庭ではチューリップの花が、ボランティアの皆さん、地域の住民の皆さんを歓迎し一斉に咲きました。



▶野外ステージ「二胡の演奏」



▲チューリップが一斉に咲きました

ホールでは「ボランティアの集い」を開催し、ボランティアの皆さんと職員との交流会が行われました。

また、野外ステージでは「二胡の演奏」「池田中学校吹奏楽部の演奏」「ジャグリング」が催され、小さいお子さんから大人の方、利用者の皆さんまでくぎづけになつていた姿が印象に残っています。そして、多くの笑顔を見ることができ、多くの方々が無事成功したことを実感しました。これもご協力頂きましたボランティアの皆さん、地域の皆さん、ご家族の

皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

来年は40周年記念になります。さらに多くの方に喜んで頂けるチューリップ祭にしたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

中川さくら祭

サンビレッジ大垣

石田奈緒子

平成27年4月4日、大島堤の見事な桜並木の中、晴天にも恵まれ例年以上に満開の桜が私達を迎え入れてくれました。

私達も地域の一員として、どのような役割があるのか、何が出るのかと、この環境の下、サンビレッジ大垣の拠点を活かしながら、地域の方々と共に創り上げ、盛り上げていこう！との思いで始まった中川さくら祭。今年で早9回目を迎える事となりました。

当日は子ども達と「妖怪ウォッチ」を一緒に踊ったり、歌ったり

の楽しい催しもあり、祭りを企画・運営くださった地域の皆様、共に

祭りを盛り上げてくれた学生ボランティア、福祉サービス事業所の皆様など、多くの方々のご協力によって、無事終えることができました。ありがとうございました。来年は「第10回中川さくら祭」となります。又皆さんと共に祭を盛り上げていきたいと思ひます。

こうした取り組みをきっかけに、相互の顔の見える関係の中、より暮らしやすい優しい地域社会創りに繋がればと願っています。



▲大島堤の満開のさくら

「しんせい語録」の読み解き

よい介護はよい医療に
勝るとも劣らない



グループホーム弥生

若原 紀子

グループホームは家庭的な環境の下で、その人らしく暮らして頂ける様に日々サポートしています。先日、体調不良により医師に入院を勧められたご利用者がみえました。ご家族の意向は、認知症が重度となった高齢の母が、治療の理解ができない状態でも、直ぐに寝たきりになる可能性が高く延命治療はせず、最期まで穏やかに過ごさせたい。グループホームでの生活を継続させたいと医師に伝えられました。医師も家族の思いを理解され、訪問看護を利用して一日一本の点滴のみで様子をみる事となりました。私たち介護者は、本人の体調をみながら離床を勧め、家族に嗜好の物を持参して頂きながら、



▲弥生のテラスから景色を楽しんでいます

お好きな物を食べれる時に提供し、今までと変わらない生活のサポートを毎日続けました。現在では症状も落ち着き、以前の状態と変わらない生活を保つことが出来ています。

環境の変化は認知症を有する方にとつて、大きなストレスを生み認知症の進行を早めてしまいます。生活を変えずに医療と連携し、最後の最期までその人らしくサポートする事こそ「よい介護はよい医療に勝るとも劣らない」と実感しています。

しんせい語録



新生グループには日めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。

生活全般を支える
介護職員は一番身近な
利用者の代弁者



新生メディカル訪問介護

宮崎 千秋

最近の何気ない会話、郵便物、冷蔵庫の中の様子がおかしい。お金が出せないのかしら？本人のいつものにない不安な表情。「どうしたらいいの」との言葉など生活が回っていないのではないかと気づくことがあります。

なかなか言葉だけでは気づけないことを、生活状況を観察することで、何に困っているのかが見えてきます。ちょっとした気づきを家族や多職種につなげ不安を取り除き、生きがい、楽しみを見いだせたら、安心してその人らしい生活を送る事が出来ると思います。

シテイタワーでは、月に1回医療連携会議が開催されます。薬

局や歯科も加わり、より様々な視点が加わり、各々の専門職が、日常的にさりげない見守りを意識的に行い、その情報を共有する場になります。私達訪問介護の情報は住人の本音、体調や気持ちの揺れなど表には見えにくい情報を届けています。私は各所の専門職から見た情報を頭に置いて、利用者の言葉の後ろの気持ちにも気付ける介護職員でありたいと思います。



▶外出も楽しみみです

vol.10

「サンビレッジの仲間たち」

介護の仕事は奥が深い

サンビレッジほづみ駅前 廣瀬利江

私がこの職業に興味を持ち始めたのは小学校4年生の時です。たまたまつけていたテレビ番組で当時の高齢者施設の実態が写し出されています。その時あるお年寄りが「私は姥捨て山に捨てられた」と言いました。その一言にショックを受けた私は、子供ながらに「こんな現実は悲しい。私がお手伝いをしたい。」と感じ今に至ります。今年で介護の仕事に就き12年目を迎え、今はサンビレッジほづみ駅前の小規模多機能型居宅介護もやいの家チクタクで勤務しています。私はこの小規模多機能の所属になり、改めて人の尊厳や生き方について深く考える機会を与えて頂いたと思っています。住み慣れた地域で、もしくは家族の近くで、自然に老いていく。それを専門性で支えるのが私達の使命。言葉では簡単ですが、一人一人、ご家庭一軒一軒全て環境が変われば提供するサービスの中身も変化します。密にご利用者やご家族の声を聞かせて頂き、常にサービスを変化させながら出来る限り良い方向へ導けるようチーム皆で努力しています。ご利用者、ご家族、職員の連携でどのような形にも変化する介護の仕事はとても奥が深いです。毎日勉強です。これからも頑張ります。



誕生日会で手作りの色紙をお渡ししました

トピックス

サンビレッジ入社式

今村 寧 理事長「40期生を迎えるにあたり」

「日本は今後更なる少子高齢化が進みます。一人一人が相手の立場に立ち知恵を出し合うことが求められます。今年度のテーマは『軌跡を振り返る』です。39年間の歴史を強みとし、理念に基づいた実践をしていきましょう」

新職員代表 橋本理香さん「入社式をむかえて」

「晴れてこの日を迎えられたことうれしく思います。小学校時代にサンビレッジに訪問し福祉に興味を持ちサンビレッジに就職することを目標にしていました」「法人の理念である“他人のいたみを自分のこととして感ずる感性と人が等しく生きてゆくことの福祉観を基本として”を心に留め、常に立ち返り努めていきます」

先輩の言葉 横山莉子さん「入社、おめでとうございます」

「新たなスタートで緊張と不安で立っていると思います。その中で二つ大切にしてほしいことがあります」「一つ、わからないことは先輩に聞いてください。聞くことで、自信と根拠となるからです」「二つ、忙しいときほど利用者の声に耳を傾けてください。忙しい時ほど何をすべきかを考えて利用者を見てください。そして、共に成長していきましょう」

サンビレッジ国際医療福祉
専門学校入学式

桜咲く4月7日、サンビレッジ国際医療福祉専門学校で入学式が行われました。玄関では新生苑から届けられたチューリップの花と学校の桜が新入生を出迎え、皆さん緊張の中にもこれから一生懸命学ぼうとする強い意志を感じる目をしていました。新入生を代表して作業療法学科1年生の尾関さんは誓いの言葉で「利用者さんの立場になって接することができるプロになりたい」とその気持ちを立派に読み上げました。これからの楽しみです。